ぶらり Library ライブラリー 第4回

第4回はうぐいす図書館。2004年にできた新しい図書館です。白山町の津市白山総合文化センターの中にあり、明るく利用しやすい図書館です。館発行の情報紙「朋友～for you～」も魅力あります。

『ルポ「まる子世代」 ―変化する社会と女性の生き方―』
阿古真理・著　集英社新書　2004年
男女雇用機会均等法第一世代の女性たちの様々な生き方は、他の世代の女性たちにも問題を投げかけます。多くの文献やデータも、本書を単なるルポに終わらせていません。

『ジェンダーで読む日本政治 ―歴史と政策―』
進藤久美子・著　有斐閣選書　2004年
日本政府は、女子差別撤廃条約の署名を見送るつもりだった。これを知った女性たちが連携して動き、各省庁の役人・政治家に要望・説得、世界会議の2日前に署名を決定した。――特にドラマティックなくだりです。

『パリの女は産んでいる ―<恋愛大国フランス>に子供が増えた理由―』
中島さおり・著　ポプラ社　2005年
フランスでは「子供に縛られて今の自由を失うくらいなら子供を産まない方がまし」と思うほど、子供を持つ前後で女の人生は変化しない。――日仏で出産・子育てをした著者の、比較・体験・見聞記です。

『男の勘ちがい』　斎藤　学・著　毎日新聞社　2004年
現代社会において、男性はどう父親になっていったらよいか、青年はどう大人の男になっていったらよいか。精神科医・家庭療法家からの提言です。特に思春期の子を持つお父さんお母さんに読んでほしい本です。

『働く女の胸のウチ』　香山リカ・著　大和書房　2005年
職場で家庭で社会で働く女性の悩みを描き出したコラム集。彼女の他の著作と同様、手軽に読めるのにエッセンスもしっかりちりばめられています。『働きマン』のイラストも楽しい。

『ライフコースとジェンダーで読む　家族』
岩上真珠・著　有斐閣コンパクト　2003年
「自立した個人」を前提として、現代の家族にアプローチしたテキストブック。「女性として」社会に関わるのでなく、「女性である」あなたが「人間として」社会に関わるのだ。――という著者の言葉が光ります。

『男女共同参画社会へ』
坂東眞理子・著　勁草書房　2004年
長年、国の男女共同参画行政の核となって活躍してきた著者の活動の記録です。ベストセラー『女性の品格』を読まれた方は、是非こちらも読んでください。

『女性の働き方きちんとガイド』
自由国民社・発行　2004年
表紙には「暮らしの中で働くことを見直そう」「SLOW WORK SLOW LIFE」の文字。雑誌ですから気軽に読めます。働く第一歩を踏み出したい人、再スタートしたい人にオススメです。

『男女賃金差別裁判「公序良俗」に負けなかった女たち ―住友電工・住友化学の性差別訴訟―』
宮地光子・監修　ワーキング・ウイメンズ・ネットワーク・編　明石書店　2005年
大企業における男女差別賃金をいかに是正させたかの闘いの記録です。全536ページ、執筆者総数40名。この“おもい”を一人でも多くの男女に受け止めてほしいです。

『無名戦士たちの行政改革 ―WHY NOTの風―』(※)
澤　昭裕（+WHY NOTメンバー）・編著　関西学院大学出版会　2007年
男女共同参画だけでなく、行政と協働して活動している方に。行政の何故?の一端が見えてきます。またNPOにおける女性の働き方の章は、ワーク・ライフ・バランス社会に向けて多くの提案を含んでいます。

●市内在住・在勤・在学の方は、どなたでも借りられます。●紹介の本は、市内の他の図書館でも、所蔵していることがあります。●お近くの図書館に本がない時でも、取り寄せてもらって借りる方法があります。（但し※の本は、うぐいす図書館の館内閲覧のみとなります。）●詳しくは、津市図書館ホームページ（http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/）または、図書館の受付窓口にお尋ねください。

「つばさ」では編集スタッフ（無償ボランティア）を募集しています。取材や紙面づくり、編集に興味のある方。経験や年令、性別は問いません。問い合わせ・申し込みは男女共同参画室まで。ご応募お待ちしております。

編集後記

☆実は、皆さんにどう読んでいただいているのか、毎回とても気がかりです。ご意見ご感想をぜひお寄せください。　（佐藤ゆかり）

☆「シリーズ～まちを元気にする男女（なかま）たち～」も２回目となりました。毎回、どんなステキな方に出会えるか楽しみです。　（松下康典）

編集・発行／津市市民部男女共同参画室
〒514-8611 津市西丸之内23番1号　TEL.059-229-3103　FAX.059-229-3366　E-mail:229-3103@city.tsu.lg.jp
編　　集／津市男女共同参画情報紙「つばさ」編集スタッフ

情報紙

つばさ

～男女共同参画社会の実現をめざして～

主な内容
◇津市男女共同参画フォーラム「わあむ津」を開催
～ともにつくろう！ わたしたちの津市を～
石坂　啓さん（漫画家）の講演
電子紙芝居「男女共同参画ってな～に？」
参加団体の紹介
◇まちを元気にする男女（なかま）たち
～第２回：伊藤 登代子 さん～
◇ぶらりライブラリー
～うぐいす図書館～

2008.2 NO.4

津市

平成19年度 男女共同参画フォーラム　新・津市男女共同参画都市宣言推進条例制定記念

わあむ津

ともにつくろう！わたしたちの津市を

津市男女共同参画フォーラム「わあむ津」が、12月１日（土）津リージョンプラザで開催されました。今年度は、新・津市の「男女共同参画都市宣言」と「男女共同参画推進条例」が施行された記念のフォーラムです。また新たに「わあむ津」と愛称も決まりました。これは「輪を編む」「和を編む」を表現。ともに手をつなぎ協力しあい支えあって、男女共同参画の「わ」を広げようという思いがこもっています。

当日は多くの方々が来場し、ワークショップや発表、また午後からの石坂啓さんの講演に、熱心に参加する姿が見られました。

本年度実行委員の皆さん

参加団体の皆さん

講演 石坂 啓さん（漫画家）

～子ども・家族・仕事の楽しみ方～

講演内容から一部抜粋してお伝えします。

男の子の雑誌に描いていました。これらの雑誌に描かれている女の子に不満がありました。極めてワンパターン。男の子の読者にとって都合のいい、そこそこ賢い、男を立ててくれる、男の子の欲求に応えて寝ちゃう、そして必ず「ヨカッタ」のセリフ――「ちょっと待って」。

全部の女がそうだと思われたら困る。そうじゃない女の子を読んでもらいたい。そう思って、割り込んで描いていました。

女性は子どもを産んで一人前、という考えが根深くあります。こういう話をする時、私は、子どもを産んではしゃいでいるようには見られたくない。私は子どもがいない時も100％楽しんできたつもりです。子どもが「いる」「いない」を「プラス」「マイナス」では考えてほしくないのです。

ほんのちょっと前の女性には、人生の選択肢、幅がありませんでした。20代で処女で結婚する。そうでない女性はキズモノと呼ばれる。結婚は家と家との関係で、嫁として主人に仕えること。子どもを産めない女性は価値がない。子どもは健常な子どもで、男の子が望まれ、たくさん産むことを望まれた時代もありました。

昔、女性は生理ナプキンをどうしていたのだろうと調べたことがありました。布を何枚も使ったり、脱脂綿を丸めてタンポンのように使ったり。その時ふと思ったのですが、戦時中、生理のない女性が多かったのではないでしょうか。妊娠中、授乳中は個人差もありますが、生理がありません。女性はたくさん産んでいました。死亡率が高かったこともありますが、子どもは、家にとって労働力、国にとって兵力でした。昔は避妊具もあまりなく、避妊を頼むこともありませんでした。

私の祖母は、子どもを10人産んでいます。結婚してから常に妊娠しているか乳飲み子がいるかの状態、生理ナプキンを使っている暇はほとんどありません。10人目の子どもを産み終える頃は閉経、下の子どもの手が離れる頃は人生の終わりだったのではないでしょうか。

日本のナプキンは今、驚くほど進化しています。ある会社は、戦時中、戦傷者用の脱脂綿を作っていて、戦後女性の生理用品にシフト換えしたと聞いたことがあります。

子どもが小学校に入学する時に、同じ地域に子どもが10人いることを知りました。うちは漫画などもあるせいか、子ども達がいつもワラワラと出入りしています。10人とも一人っ子、10人とも母親がフルタイム、３人が離婚家庭、３人が外国籍、一戸建ての子は１人もいない、祖父母と住んでいる子は１人だけ。

一人っ子というのは決して女性が楽をしたいからじゃない。１人は産んでみたけれど、「こんなはずでは」「２人目はちょっと」となってしまう。夫は当てにならない、保育園を探すのも大変。地域のサポートは？　会社は？　女性の側では現実とのギャップを感じているのです。

今、住んでいるM市の市長に要望を出しています。東京都ではM市だけ中学が弁当なのです。お金がないからではありません。「お弁当はお母さんが作るべき」という考えがあるからです。おカミからこれが母親の役割であると押し付けられるのは抵抗があるのです。女性の実情を汲んだ地域のサポートが必要です。

育児をしない男を父とは呼ばない――というポスターが、厚生省から出されたことがありました。厚生省としては頑張ったなと私は思ったのですが、オジサマ議員からは不満が聞こえたようです。「女はこれ以上何を望むのか。」

でも、あのポスター思い出して。機嫌のいい赤ちゃん、しかも縦抱きできる月齢です。あの縦抱きの前に、どれくらいのグチャグチャの苦労があるのかわかっているのか。

夫にあてつけがましく、皿を割ったことが何度かありました。子どもが小さい時、キレそうになった友達は多いです。

友人の１人である女医は、同業者の夫に、今でも腹が立つそうです。何故子どものことで呼び出されるのは自分なのか。何故自分の方が気ぜわしいのか。彼女は顕微鏡で染色体を見るたび、思ったそうです。XとY、ほんのちょっと、男にはひとかけら足りないあそこの部分に、掃除とか洗濯とか炊事とかの情報が書いてあるのではないのかと。

例えば､子どもが夜泣きする時期。夫が「俺がオンブするよ」と言ってくれたので、オンブさせようとすると、夫は背筋をピンピンに伸ばして立っているのです。乗せやすいよう前屈みになってもらおうと「斜めになってくれない？」と頼むと、夫はなんと、上半身を横に折って斜めになったのです。ふざけているのではなくまじめに。

おっぱいがちょっと足りなくて、夫に「ミルク作って」と頼んだ時。大きなやかんで湯を沸かし、沸かしすぎて氷水で冷やし、冷やしすぎたので湯を足し…、20分。待ちくたびれた赤ん坊はもう寝ています。

保育園に通い出してから、夫が「今日は俺が迎えに行くよ」と言ってくれたことがありました。ところが、12月のすごく寒い夜、子どもは、朝着ていったコートを着せられないで、自転車の前でまともに風を受け続けて帰ってきました。夫はといえば革ジャンを着たまま。

何故、気づかないのか。男にはやはり決定的に何かが足りないのか。

考えてみれば、子どもの一番かわいい時期を見ることの出来ない夫も、結構気の毒です。今の世の中、忙しすぎます。大人の健康な男性の回転数で社会が進んでいます。本当は、もっといろいろな回転数があっていいのに。

今は、女性の意識が先を行っています。「親のような生き方は嫌だ。」逆に男性は遅れています。「自分たちの親は、これでやってきたのに。」

男女共同参画――理想形に追いつくには時間がかかります。でもその理想と現実のはざまで、女性の不満足が高まっていくのです。

赤ん坊育ては、効率の反対側にあります。赤ん坊のテンポに合わせて、もっとゆっくり生きてもいいのでは。みんながお互いに生きやすい世の中を目指していけたらと願います。

来場者の方の感想から　～アンケートにご協力ありがとうございました。～

- 今回の講演会のような話をききたいです。視点が鋭くて、しかも分かりやすいお話でした。（30歳代･女）
- 予想以上に感激した。もっとこのような講師を選んで、講演会を開いてほしい。（70歳代･男）
- もっと若い人の参加をどうしたらいいか考えるべき。最後の憲法9条の話、教育基本法の話が一番よかった。（70歳代･女）
- 話の切り口がユニークで興味を持って講演を聴けたと思います。（50歳代･男）
- 現状の社会問題を捉えたフォーラム。今日の様な講演の継続を切望します。（60歳代･男）
- 今日の講演会はすばらしかった。何度か参加した中で一番良かった。（50歳代･女）
- 講演とは名ばかり。個人的な話ばかりであった。（60歳代･男）
- 講演は今日のような気楽なものがよいと思う。（20歳代･女）

取材記者メモ

石坂啓さんということで、今まで男女共同参画に関心がなかった方も、また市内外かなり遠方からも多くの方に集まっていただけたようです。メディア・リテラシー、性の自己決定権、性別役割分業、ワーク・ライフ・バランスなど、男女共同参画の問題を、身近な生活から解き明かしてくれた石坂さん。ただ一つだけ反論を。XとYの染色体の話は、生物学的性別と社会的性別を混同してしまっていて、「やっぱり女は家事・育児をすべき」という意見を誘発してしまう危険性があるのでは？

また、アンケートに「個人的な話ばかり」という感想がありました。でも、「私のこんな悩みなんて」と思っていた小さな一つ一つの個人的なことが、実は社会的な問題であることがとても多いのです。それを解決する積み重ねが、男女共同参画社会を築いていくのではないでしょうか。

（佐藤ゆかり）

今年の参加団体です。それぞれ工夫を凝らした活動・発表・展示・販売で、好評を得ていました。(順不同)

《ワークショップ（活動発表）》

津アイリス 男女で楽しく笑いと癒しの音楽笑法	**新日本婦人の会津支部** 平和って男女平等って だれがつくっていくのかな
世界平和女性連合 三重県連合会 お父さんお母さん塾	**MIE・STUDY** 高齢者が住みよい町づくり

《展 示 即 売》

夢の郷 障がい者の社会復帰促進（手作りパン・手作りクッキー）	**津友の会** 生活をいつくしむ（エプロン・ふきんなど）
Agriロマン津 地元特産物を使った味の伝承（味ご飯）	**ラポール** 支え合って社会参画を目指そう（手作り絵はがき・廃油石けん）

《展 示 発 表》

UDまちづくりの会 ユニバーサルデザインのまちづくり	**新日本婦人の会津支部** くらしと平和の絵手紙	**みえウィメンズ・プラン** あなたとわたしの男女共同参画	**津友の会** 生活をいつくしむ ーくらし上手の知恵とコツー
津市農村女性アドバイザー連絡会議 食と農 体験学習活動の報告展示	**三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」** 映像とパネルでみる男女共同参画	**藤水地区環境を考える会** 生ごみ・廃食油の処理について	**無名針花** 手仕事好き仲間 布と花との語らい

～ご参加の皆さまのアンケートから～

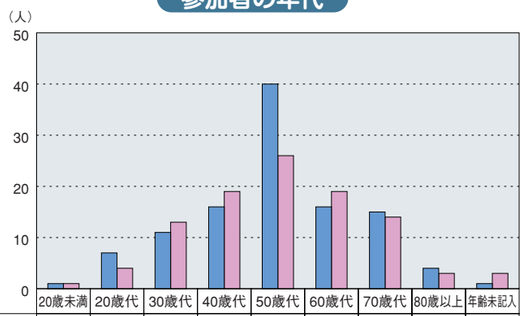
今回の企画・運営は、いかがでしたか？

- ワークショップに工夫がされ、意見交換も良かった。（60歳代）
- もっとたくさんの人が来られたらいいと思う。いい展示がもったいない。（40歳代）
- 子育て世代の若いお母さんが参加すれば、子育ても少しは楽になる。（60歳代）
- 参加団体の紹介は良かった（50歳代）
- 紙芝居はわかりやすくて良かった。（60歳代2人）
- 身近な問題を提起して、よく理解できるよう、地道な活動を期待します。（60歳代）
- 女性からだけでなく男性から見た男女共同参画が必要。切り口・見方を変える。（60歳代）

今後のフォーラムで、どのような内容を希望されますか？

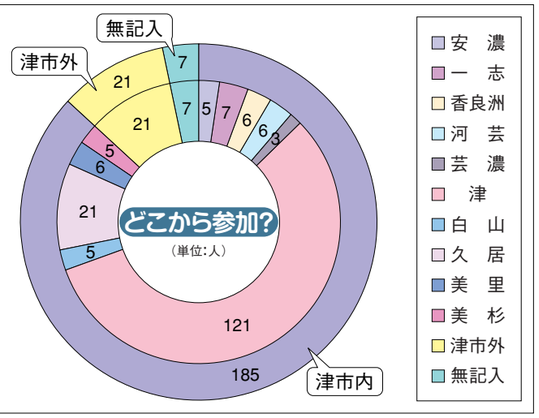
- 託児付きの講演。（30歳代）
- 働く母親対象のフォーラム。工夫や努力、実績など身近で元気が出るもの。（40歳代）
- 若い人対象のフリーマーケット。話題の映画上映。アマチュアバンドのミニコンサート。外の広場での催し物。（40歳代）
- 男性の家事参加の状況。子どもと一緒に遊ぶこと。（50歳代）
- 各地域の自治会の取り組み方。高齢者の集いの楽しみ方。（60歳代）
- ヨーロッパ・北欧の共同参画の紹介と日本との差異。（60歳代）

参加者の年代



	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	年齢未記入
男性	1	7	11	16	40	16	15	4	1
女性	1	4	13	19	26	19	14	3	3

どこから参加？



電子紙芝居「男女共同参画ってな～に？」を上演

フォーラム当日、お城ホールでは、実行委員のみなさんの手作りによる電子紙芝居「男女共同参画ってな～に？」も生で上演されました。

この紙芝居は、男女共同参画フォーラム実行委員会が多くのみなさんに少しでもわかりやすく、男女共同参画について知ってもらおうと、「職場」、「学校」、「地域」、「家庭」といった身近にある事例を取り上げ、制作したものです。実行委員みんなで台本を作り、イラストの得意な委員が下絵を描き、手分けをして色を塗って仕上げられています。

今回は、フォーラム用に電子紙芝居として上演された9場面のうち、2場面をご紹介します。

家庭編「それは立派な、DVです」

S夫さんは、家事・育児すべて妻のY子さん任せ。縦のものを横にもしようとせず、今日も家へ帰るなり、散らかっていた部屋を見てY子さんに怒鳴っています。

続けたかった仕事も夫の反対で辞めたY子さんは、悔しさで胸が震え、子どもたちも怯えた目で見ています。

次の日、子どもが学校で萎縮しがちなことを聞いたY子さんは、頭ごなしに怒鳴りつける父親の影響が大きいと思い、一大決心をして、市の相談窓口にいきました。

「大変でしたね。あなたは立派なDV被害者ですよ。殴られたり蹴られたりするだけがDVではありません。あなたのように精神的苦痛を受け続けるのもDVなのです」（市相談窓口職員）

DVは身体的暴力だけではなく、精神的暴力や性的暴力も含まれます。身近な人に相談しにくかったり、相談しても分かってもらえないときは、女性相談所や市、県の窓口に相談しましょう。

職場編「職場での健康管理 カウンセリングを受けてみたら…」

春の異動で課長補佐に昇進したAさんが、最近元気がないので同僚が心配しています。Aさんは大きなプロジェクトを任され残業続きで、また、昇進して気苦労が増えたことも原因のようです。ある日、同僚の芸濃さんは、暗い顔で独り職場の机の前に座っているAさんに「このごろ前のように元気がなくて心配してるんだけど、どこか体でも悪いの」と声をかけました。

「寝付けないし、体中が痛くて。医者に診てもらったけど、何ともないって言われたんだ」というAさんの話を聞いた芸濃さんは、うつ病でも初めは体が痛い症状があるので、一度、総合内科で診てもらうことを勧めました。

社会構造や人間関係が複雑になる中で、うつ病などが増えています。仕事量も責任も重い中間管理職の男性に多いようですが、女性にも増えつつあります。周囲の人は「おかしいな」と気付いたら早めにカウンセリングなどを受けるように勧めましょう。

「紙芝居」の貸出を行っています。詳しくは市男女共同参画室（電話229-3103）までご連絡ください。

まちを元気にする男女（なかま）たち

第２回　伊藤登代子さん

「まちを元気にする男女たち」、第２回は伊藤登代子（いとうとよこ）さんです。伊藤さんは、有限会社「キャリア・プレイス」代表取締役。ＮＰＯあいむネットの時代から、常に女性たちを応援し続けてきました。10月の午後、高茶屋小森町のオフィスに私たちを迎えてくださった伊藤さんは、終始やわらかな津のことばでご自身を語ってくださいました。聞けば、生まれてからお住まいはずっと津とのこと。それだけに「この地域の女性を何とかしたい」という思いも強いのでしょう。伊藤さん自らの自立と、女性への自立支援についてご紹介します。

伊藤登代子さんプロフィール

1958年　津市に生まれる。
⋮
（三重短期大学卒業後、就職・結婚専業主婦に）
⋮
1987年　２人目の子どもを出産。
1988年　30歳を機に私の人生を考えようと決意。様々な職業や資格に挑戦する。
1993年　35歳頃から、具体的に活動するため、名古屋で女性学・起業等について学び始める。
1997年　三重県初の女性自立支援ＮＰＯ「あいむネット」を設立する。
2000年　「ＮＰＯあいむネット」と「あいむオフィス」に事業を分割する。
2003年　『夢をかたちにした女性たち』出版。
2004年　有限会社「キャリア・プレイス」を設立、代表取締役となる。
2005年　国際ソロプチミスト三重「女性のために変化をもたらす賞」受賞。

始動「マイストーリー」プロジェクト

情報誌「マイストーリー」はもう読んでいただけましたか。人生に前向きな女性を応援するフリーペーパーです。この情報誌と、ＦＭ三重のラジオ番組「マイストーリー」、イオンショッピングセンターでの「子育てママ応援ワクワク広場」、ＷＥＢでの「キャリ・プレモニター」の４つを連動させて、“三重の女性を元気にしていく”「マイストーリープロジェクト」がいよいよスタートしました。

起業して10年。その実績があるからこそ、情報誌もスムーズに発刊できたというのが実感です。しかもうちは“女性を応援する”というミッションで動いてきましたので、それに賛同してくださる形で、企業も協賛してくださったんです。

ＦＭ三重さんと一緒に作っているラジオ版「マイストーリー」も毎週金曜日、11時より放送されています。パーソナリティは、田村真喜子さん。働きながら２歳の子の子育て真っ最中ということで人選しました。番組の構成は、私が担当しています。とにかく「女性が元気になる番組作り」を基本に、地元の方をゲストに迎え、それぞれの「マイストーリー」をお聞きしています。

ＷＥＢモニターも、皆さん一生懸命書いてきてくださる。自分の意見が役に立つことが嬉しい、三重県に反映されるのが嬉しいって。それに好きでしょ女性は、ポイントためるの。

子育てママを応援するのは、30代は社会を動かしていく主流だから。子育てと同時に自分も育てていってほしい。彼女達に意識改革とか情報提供とかサポートするのが大事だと思って。子どもを連れてイベントに来て、同世代の女性がスタッフしてたら意識しますよね、私も出来るかなあって。彼女達にリアルな場でも見てほしいと思ってしています。

きっかけは中学校

小学生の時から日本の男女の位置関係に敏感なところがありました。

中学の時、テストの前日、優等生の男子が掃除サボって帰ったんですね。それをホームルームで指摘したら、女性の先生が、笑って「まあ男の子やでしゃあないか」と言った、同じ女性なのに。それで学校の中のいろんな男女差別に気付いてしまったんです。名簿の後・先とか引っ掛かりまくりになって、どんどん先生に突っ込んで聞いて、嫌がられるようになってしまった。ある日、学年指導の先生に「覚えとけよ」と言われた。だから私、今でも忘れないで覚えているんですけどね。

何で疑問に思ったことを口に出してはいけないの。男子だったら「はっきり言う」「鋭いこと言う」と褒められるのに、私は「女のくせに」と言われる。女友達にも「何でそんなに言うの。黙っとったらいいやんか」と言われたけど、「だって変やんか」と言う――変な子でしたね。

17歳の頃、樋口恵子さんをＴＶで見て、女の人でもはっきり自分の意見を言える、評論家っていう仕事があるんや、すごいなって憧れて。図書館の本で「女性差別」「女性解放」といった言葉に出会うんだけれど意味がわからない。“自由にどこでもいけるし、何にも束縛されてないのに、何をこの人たち怒っとるのやろ。”その時はわからなかったんですよ。

自分探し、そして活動へ

自分の母親の時代の女性像みたいに、いいダンナさん見つけて奥さんに納まる生活はしたくない。でも実際には、就職し結婚して普通の道に行ってしまった自分に、すごい不満感を持っていた。自分が描いてたんじゃない自分がいる現実。子育てもやらなあかんことやけど、私自身が何かをしたい、でもそれが何かわからない。子どもに乳を飲ませながら、ずうっと自分探しをしていました。

29歳で２人目を産んで、よし30歳、ここから私の人生考えようって決意して、あらゆることに挑戦しました。空いている時間に塾の講師やアルバイトをしたり、通信教育で資格を取ったり。でも長続きしませんでした。“何で私はこんなにできやんのやろ。それは私が本当にしたい仕事じゃないから。じゃあ私が本当にしたい仕事って何？”。35歳、そこからもう一度自分探しです。

当時女性が再就職しようとしても35歳以上は仕事がなかった。子どもが大きくなってやっと働けると思ったら、社会がシャットアウト。“女をなんやと思っとるんや。子どもを産んで育てて後はポイ捨てかい？”この社会の矛盾を、絶対おかしいと思う人は私以外にもいるはず。35過ぎても何か出来る女性、やりたいと思う女性は世の中にいっぱいいる。その女性のパワーを集めて新しいことをできないか。それを形にするための仕事をしよう。

それからは、具体的に活動するための勉強を始めました。名古屋まで出掛けて、女性学を学びました。女性差別を感覚的でなく、学問的・理論的に勉強したかったからです。同時に起業の勉強もしました。そこで「伊藤さんがやりたいことは会社じゃなくてＮＰＯだよ」って言われて、ＮＰＯも勉強して。それで1997年、ＮＰＯあいむネットを起ち上げたんです。

ＮＰＯから会社設立へ

津新町の商店街の空き店舗に事務所を構えました。女性の自立支援のためのＮＰＯ。マスコミもどどっと取材に来ました。拠点ができると人が集まるんですね。あっという間に会員200人。会報紙も作りました。

当時の実情は家賃を払うのもやっと。当初、手づくり作品を作る人たちを集めてショッピングセンターで売るという企画をやっていたんですが、それを見た市内のショッピングセンターから「毎月、１店舗ずつやってもらえませんか。」「やったあ家賃代get！これで追い出されずに済む。」といったこともありました。

2000年、活動のための「あいむネット」と、仕事をする「あいむオフィス」に事業を分割しました。仕事の部分は、各人のやりたい仕事・できる仕事から部門を作り、企業さんをつなぎ、何とかやってきました。

時代も変わり、そろそろ法人化という時期に、ＮＰＯのまま法人化するか、会社組織にするか随分悩みました。でも私自身、ＮＰＯの限界も感じていました。例えば名刺１つでも、代表取締役とＮＰＯ代表とでは全然違う。男性は肩書に弱いんです。一から出直そう、気持ちをリセットしようと、2004年思い切って会社にしました。名前も新たに「キャリア・プレイス」と変えました。「キャリア・プレイス」とは“能力が集まる場所”という意味です。

次の世代につなげる

弊社は「地方力」が売りの一つです。企業は消費者の本音が聞きたい。一方消費者は不満がいっぱい。そこで両者をつなぐわけです。三重県内の企業に、三重県内の消費者の情報。三重県内に限定する代わりに、三重県の濃い情報を届けます。東京にある全国の経営者のネットワークにも入っていて、毎日東京のリアルな情報も入ってきますが、ここでやっていることは東京では無理。東京ってバカでかいし、いろんな人がいますから。三重県やでできる“喜び”です。

今、会社では、女性への経営コンサルティングをしてます。資格取ったからすぐお金を稼ぎたいという若い人がたくさん来ます。でも経験がない。ビジネスの基本もわからない。だからそこから教えていきます。彼女達には格安でやってます。女性の経営者が育てば、働く女性が増えて社会が変わる。彼女達が人を雇えば、次の女性が社会に出るチャンスが作れる。

39歳で起業して、この10年は突っ走ってきました。来年からは、自分が10年間で得たものを、次の世代につなげていきたいなあって。これからの10年の目標です。

もう一つ大きな目標は、この会社をその名の通り、本当の「キャリア・プレイス」（＝能力が集まる場所）にしていきたいということです。私なしでも、それぞれのプロジェクトを各担当者が寄って連携して動かしていく。よく笑い話で言うんですけれど「私は会長になりたい」。今までは自分が先頭切ってやってきたけれど、自分は後ろ盾になってバックアップするのが夢ですね。

2007年10月15日津市高茶屋小森町
「キャリア・プレイス」オフィスにて